

令和 7 年 6 月 25 日

議会運営委員会会議録

- 1 日 時 令和 7 年 6 月 25 日
開会 11時20分 閉会 12時02分
- 2 場 所 幕別町役場 3 階議場
- 3 出席者 委員長 小田新紀
副委員長 野原恵子
委員 塚本逸彦 内山美穂子 酒井はやみ
荒 貴賀 岡本眞利子 田口廣之
副議長 中橋友子
議長 寺林俊幸
オブザーバー 石川康弘
- 4 傍聴者 山端隆治 長谷陽子 吉原 慧（勝毎記者）
- 5 職務のため出席した議会事務局職員
事務局長 佐藤勝博 課長 岩岡夢貴 係長 渡辺 優
- 6 審査事件及び審査内容(別紙)
 - 1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第 9 回）
 - (1) 議員定数のあり方について
 - (2) 今後の進め方について
 - (3) 次回の委員会の開催日程について
 - (4) その他

議会運営委員会委員長 小田新紀

◇審査内容

1 議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第9回）（11：20～12：02）

○委員長（小田新紀） ただ今より、議会運営委員会における議員定数及び議員報酬等の見直しについて（第9回）の会議を開催いたします。

さっそく議案のほうに入ります。

1、議員定数のあり方についてを議題といたします。

本委員会において、これまで計8回の回数を重ねて、さまざまな視点、観点から議論をしてまいりました。前回におきましては、常任委員会のあり方ということで委員のみなさんからご意見をいただきましたが、第1回の会議からだいぶ時間が過ぎている、あるいは委員が少し変わっているということもありますので、改めて事務局のほうでまとめていただいたものを、簡単ではありますが説明を求めたいと思います。

議会事務局長。

○事務局長（佐藤勝博） データで配布させていただきました資料のうち第1回から第8回までの会議内容を記載しました資料をご覧くださいと思います。

それぞれの会議の日時、場所、議題に加え、委員の皆様から出されました主なご意見などを要約したものであります。本日は時間が限られており、詳細についての説明は省略させていただきますので、のちほどご参照いただきたいと思います。

○委員長（小田新紀） 特に、ご質問等ございませんか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） ないようですので、前回お話をさせていただいたとおり、一定程度の方向性を示していきたいと思っております。本日は、かなり限られた時間ということになりますが、できれば委員一人ひとりからこれまでの経過を踏まえて、改めてご意見を述べていただきたいと思いますと思っております。議員定数の数も踏まえた上で、そのご意見の根拠等も踏まえて、述べていただければと思います。

ご意見のある方は挙手をお願いします。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） いろいろな考え方とか、立場から意見が出てきたところでありまして、なかなか見えてくるものがないというか、表題にもあるとおり議員定数の見直しにそろそろ踏み込んでいかなければ、考慮しながらいかなければならないかと思います。今、実質18名ということと、統計的に見ればやはり多いのかなという考えを持っておりますので、数は別として減少の方向で、そのなかで委員会、先般もありましたとおり、どう活動していくのかという議論が出てくるのかなと思います。委員長がおっしゃられたように、定数も踏まえてある程度の方向性を出していかないと、なかなか先へ進まないのかなと思います。数ありきという意見も、現状維持という意見もございますので、そういった部分も議論していかなければならないかと思いますが、やはり本題のほうの落としどころというか、本来の向かうところに進まないと、堂々巡りの意見で、まとまるのは難しいかなという気がしております。

○委員長（小田新紀） 塚本委員のご意見としては、ほかとのバランスも考えて減ということですね。

ほかいかがでしょうか。

内山委員。

○委員（内山美穂子） 前回、常任委員会の数の見直しという話をさせていただいて、

芽室町議会が、今、二つなのです。その内容も見させていただいて、それはみなさんと議論して、二つでもやっていけるのかどうかということなのですがけれども、もし今の三つままだとしたら、一人減で、二つにできるとしたらもう少し減らせると思っています。

○委員長（小田新紀） 改めて減らしたほうが良いという理由については、いかがでしょうか。

○委員（内山美穂子） 多ければ多いほど客観的な議論ができるし、いろんな声を取り入れることもできるし、多様性という意味からふさわしいのかもしれないのですが、やはり周りとの比較というのもある程度必要になってくると思うのですよね。これから5年後、10年後、人口が減っていく中で、やはり一度周りの状況を見ながら、どうなのかというのは考えないといけないと思うので、今のままではなく人数はここでは言いませんが、削減の方向で考えています。

○委員長（小田新紀） そのほかいかがでしょうか。
荒委員。

○委員（荒 貴賀） 私は、現状維持を求める立場で発言したいと思います。議会の役割について、議員として住民の福祉の向上を図るべく、取り組んできたところです。今の地方の多様化、いわゆる今私たちが審議しなければならない案件ですとか、住民の方の意見、この問題を一つひとつ精査し、住民のための政策になっているかどうかを検証するためには、今の三つの常任委員会で今の人数で取り組むことが必要であろうと思っています。特に減らすことによって、これから議員になりたい方や、議員を目指す方にとって、可能性が下がるようなことはあってはならないですし、ほかの方たちが議会を通して、住民自治のことを推し測るべきだと考えております。私の意見としては、今の定数は維持するべきであろうと考えております。

○委員長（小田新紀） そのほかいかがでしょうか。
岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 私も現状は厳しいのではないかと考えます。2023年の町議選において史上初の無投票ということになりましたので、19人で無投票だったことを考えますと、現状維持というのは、なかなか厳しい面があるのではないかなど。人数が決まってからでも常任委員会をどうするかということは、議論できるのではないかと思います。多様な人材に立候補してもらうためには、議員になるという環境整備を、なりやすいというところを考えると、そういうところも改善していきながら、人数を考えていかなければならないと考えますので、削減ありきではないのですが、削減の方向に私は考えております。

○委員長（小田新紀） ほかにいかがでしょうか。
酒井委員。

○委員（酒井はやみ） 私は、少なくとも現状の数は維持するべきという考えです。この間議論してきたとおりなのですが、議会で議論する案件、また多様な意見をさらに反映させていくということでは、より議論を豊かにしていく方向性を保障するためには、人数を減らすということは一致しないのではないかと思います。また、いろんな方に議員になっていただきたいということで言うと、定数を減らすと出てきづらくなるのではないということも懸念しています。

○委員長（小田新紀） ほかにいかがでしょうか。
田口委員。

○委員（田口廣之） 私は定数維持の考えです。この前も言いましたけれども、やはり委員会というものは結構専門性とか、いろんな情報の処理や議論する場所が必要になってきていると思います。一つの常任委員会だけに所属して、そこに集中するのではなく、全体を見ながらきちんと自分の責任を果たすべく、議論すべきだと考えます。また、幕別町が縦に長いとかいろんなことあるのですけれども、地形の関係も含めて、隅々まで町民の意見を聞くためには、定数を減らすべきではないと思います。

○委員長（小田新紀） ほかにいかがでしょうか。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 今までの議員のどういうところからいろんな町民の方が議会にももちろん選挙もあって、議会に臨むということなのですからけれども、この間女性は確かに増えたと思うのですけれども、忠類の議員も少なくなりました。農村議員も少なくなりました。それはどうしてなのかということも検証していく必要があるのではないかと考えています。やはり幕別町は合併した地域ですから、そういうところからも議会に臨まれて、地域の課題ですとか、地域だけではありませんけれども幕別全体の町づくりをどうするのか、そういうところもしっかり議論していくという意味では、いろんな地域の方、いろんな階層の方、若い方も少ないかなと思うのですよね。ですからそういうことを考えますと、いろんな方が議会に出てくるチャンスということを見ると、定数は維持すべきと考えます。定数を少なくしたからといって、手を挙げる人が増えるのかと言ったら、ますますハードルが高くなるのではないかと考えています。少なくとも現状が望ましいと考えております。

○委員長（小田新紀） そのほかいかがでしょうか。

石川議員。

○オブザーバー（石川康弘） 私は定数減の考え方です。前回、委員会の人数についても話し合いがありましたけれども、定数が決まってからでも十分議論はできるし、今も議会のいろいろな検証についても意見が出ましたけれども、それは常日頃から議員としてその辺については、考えながら議員活動をすべきであるし、定数が決まってからでも日々やることです。クリアできるのかなと思います。前回の選挙、無投票であったと。内容を鑑みたときに詳しくは申しませんが、まだまだ定数を削減して、一人ひとりの資質、見地を高めて、しっかり議論できる議会にするためには、競争原理が働いていく必要があると感じます。そういった意味からも、全国のデータから見ても、十分削減された人数で議会はやっていけるのかなと考えております。

○委員長（小田新紀） それぞれご意見をいただいたわけですが、改めて出てきたご意見等に対して、賛否含めて挙手をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

ここまで、事務局のほうからもお話がありまして、資料を用意していただきましたけれどもこれまでの経過ということも振り返ってみますと、最初に数の議論だけに収まらないようにということで、さまざまな観点で、幕別町議会としてのあり方というのはどうなのだというので、いくつか視点で見てきたと認識しております。ほかの町の状況ももちろん参考資料としていただきながら、数ということだけにとらわれないでということでありましたが、今みなさんからご意見いただいた部分については、最低でも現状維持というご意見のなかでは議会の役割であったり、議論を幅広く多様性を求めてということであったりとか、幕別町の特徴を踏まえてということが、中心の根拠であったかと思います。また、減らすというほうのご意見については、定数を

維持するメリットを踏まえながらも、他町の様子や前回無投票だったということを踏まえて、減らすのがいいのではないかというご意見だったのかなとおさえているのですが、それらをもう一度振り返っていただいて、改めてご意見いかがでしょうか。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 議員定数をどうするかという立場でお話されたかと思いますがけれども、議員の役割はどういうものなのかという、そこも議論していくことも必要なのかなと。元に戻ることになるのかもしれませんが、そこを深めていくということも必要だと思うのですよね。議員はやはり議論して、その中で役割を果たしていくという側面もありまして、幕別町議会として議論がどうだったのか、その議論をどこでするかということも、きちっとおさえておかなければならないと思います。委員会や議場とかそういうところでの議員が町民の代表としての役割を果たしたのか、行政側との議論もしっかりチェック機能を果たしているのか、自分自身で考えて、議員とはということを見直していくことも必要だと思っております。

○委員長（小田新紀） これまでのそれぞれの取組を振り返りながら、今後そういったことを自分たちでも振り返っていきながら、進めていくべきではないかという意見ですね。

岡本委員。

○委員（岡本眞利子） 議員としての議論は大事だと思うのですが、選挙になるかならないか、なり手不足というところが危惧されるところだと思うのですよね。議員が多くて、みなさんで議論をしていくことは大切なことだと思うのですが、そのなかに19人でもなり手不足で、大変厳しい状況だったことを踏まえたと、選挙ですからどうなるかわかりませんが、人数がそれだけ本当に立候補してもらえて、議員になりたいという人たちを出てきてもらえるかを考えますと、どこの町でもなり手不足がネックになっていると思うのですが、うちの町がほかの町と比べるわけではないのですが、そのような状況のなかから住民にどうやって説明していけるのかなと。ほかの町と比べるわけではないのですが、状況的にも考えまして、私たちには説明責任が問われると思います。どうやって説明していけばいいのかなというのが、私としては考えるところであります。

○委員長（小田新紀） いかがでしょうか。

野原副委員長。

○副委員長（野原恵子） 全員協議会で藤原議員が、商工会の若い青年が当選するにはハードルが高いと発言されたのですよね。私、本当に考えるところがあったのですよ。若い人たちがつながりや組織があまりなくて、出ていこうと思ったら今の状況でもハードルが高いと。当選ラインが500票から600票、定数を削減すると、もっと高くなりますよね、そういうことを考えると、やはり若い人たちが出てくる一つの条件というのが、すごく考えさせられました。やはり多くの人たちが出てこられる状況も必要かなと思いました。

○委員長（小田新紀） 関わって、いかがでしょうか。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦） 今回、私もそうですけれども無投票になったというのは、なり手不足もありますけれども、制度が大きく変わって供託金が入ったということも大きいと思います。それによって、選挙に以前はならないと、ということで、言葉悪いですけどもそれを目的に届け出を出されたという話も聞いておりました。今回はそうい

う方がいなくなって、本当に貢献したいという方が集まったのではないかなという気がしております。若い人たちのハードルは確かに高いかと思います。その中でも、自分でご商売されていたり、副業をされていたりする方、自分で自由な時間を段取りでできる方は立候補できるかもしれないですけれども、一般の方は報酬の問題が大きいと思います。市議会議員等は生活できるレベルの報酬なので、若い方も立候補出来ますよね、一般のサラリーマンの方でしたら、会社が融通利かせていただけるかとなると、浦幌町議会議員の方のように有給扱いにして、議会に出席できるということで、若い方も立候補できたということもありますけれども、幕別町もそういったことも踏まえていけないといけないと思います。報酬の増額に関しては、定数の問題、それから先ほど言った質の問題、それから住民の納得というのが非常に大きいと思いますので、その辺がいろいろ複合的に絡んでくるかと思います。

○委員長（小田新紀） ほかにありませんか。

せっかくの機会ですので、議長と副議長にも少し感想、ご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

寺林議長。

○議長（寺林俊幸） 冒頭説明ありましたとおり、これまで昨年から今回まで幾度となくみなさん協議をいただいているわけですが、大きい課題というのは、前回の改選期で無投票であったということが一番大きいことで、これからの議員のなり手不足への対策について、みなさんにどういう形で町政、議会に興味を持っていただけるかということから、定数、報酬や政務活動費の導入について検討いただきたいということもあったわけですが、これまでの出されている意見に対して、否定するのはなにもありませんけれども、やはり若い方々にもしっかりと興味を持って、志がある方にはそのチャンスを生かしていただけるような体制をとっていかねばならないだろうということは、中心に考えて進めていただければと思っております。

○委員長（小田新紀） ありがとうございます。

中橋副議長。

○副議長（中橋友子） それでは、オブザーバーの立場ですが、昨年の12月から議論されてきたことというのは、基本は議員の数をどうするかということなのですが、改めてこの半年以上、議会議員の役割は何なのだとことを考えさせていただく機会になって、ずいぶんいろいろ思いをはせることができました。議員の資質の問題であったり、他町村との比較であったり、いろいろありました。自分がそこにおりますので、客観的ということにはなりませんけれども、私はやはり幕別町議会をこれまでの議員のみなさんの取組などを見ていると、一般質問も活発に行われてきていますし、予算、決算の審査のなかでもそれぞれのみなさんの見識、あるいは職業だとかいろんな方いらっしゃいますよね。そういうのも活かして、望んでこられているという点では、決して役割を果たせていないとは思っておりません。その上で、なり手不足ということは課題であると思います。ただ、みなさんの意見を聞いて本当に悩むところなのですが、なり手不足を解消するためにどうするかというと、今ありましたように報酬の問題はあると思います。これだけ時間を割いていても、この報酬では生活できないということはあると思うのです。ですが、議員は兼職が認められているということもありますから、それをどうバランスをとるかということと、それから定数を変えていく、定数を増やしていけば当選ラインというのは下がりますよね。しかし、定数を減らしていくと上がっていく、そうするとそれは出づらさと考え

えたときに、どちらがいいのかということも見なくてはいけないというようなことを思いまして、この定数の問題には直接、自分として意見は表明しませんが、やはり思うことはこんなに頑張っている議会のことを住民のみなさんに知っていただく取組というのは足りなかったかなと、正直思います。前々回の議会運営委員会のときに、本州の議会も含めて、いろんな取組していることを学びましたよね。それは単なる意見交換会ではなくて、議会議員そのものがどんな役割をしているのかというようなこともつぶさにやってきましたよね。そういうことをこれから幕別町議会にとって必要かなと思いました。改善の余地はまだあるかと思っています。

○委員長（小田新紀）　ありがとうございます。

ご意見に変化があったとか、さらにご意見を重ねてという方がいらっしゃいましたら挙手をいただきたいと思いますのですが、いかがでしょうか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀）　なかなかどちらかにはっきり決めるということは、今の時点ではまだ難しいと認識しています。いろんなご意見のなかで、なり手不足という言葉が多く出たり、それらも含めた報酬のあり方とか、なり手不足に重なりますけれども、いろんな人が出やすい体制づくりというのも、複合的に考えていきながら、定数というところも考えていかなければいけないと思いますが、この定数だけにこだわってずっとここの議論を重ねても、なかなかこれ以上の進展はないのかなと考えます。先ほど少し触れましたが、報酬の部分であったりとか、政務活動費といったお話もいただいていたかと思うのですが、そういった部分のことも含めて、総合的に考えていくという進め方をしないと時間がないのかなと思っています。定数に関しては、現時点では、数字で言えば17人から19人あたりが幅を持たせた一定方向性なのかなと考えています。減らすというみなさんも具体的な数字はそんなはっきり出ていないので、一人もしくは二人程度と受け止めていますけれども、そういった17人から19人ということを含みながら、今後報酬といったところにテーマを移して、議論をしていくという進め方にしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声あり）

○委員長（小田新紀）　とは言いながらも、報酬も含めて9月くらいには一定方向を決めていかないといけないと思います。今回芽室町議会の記事も用意していただきましたけれども、芽室町議会もある程度、議会としてこういう複数の意見というか、一つに決め切れていないなかで、住民のみなさんと一緒に考えていくというスタンスを出されているわけですが、そういったことも今後参考にしていけるべきかなと思います。ただ聞くということではなくて、住民のみなさんに説明しながら、いろんなご意見を聞く機会をどういうふうにしていくべきかということも、みなさんのほうからも提案をいただければと考えております。

では、次の委員会の開催日程についてを議題といたします。

7月上旬から中旬で決めていきたいと思いますが、みなさんのほうで都合の悪い日がございましたら、うかがいたいと思います。

塚本委員。

○委員（塚本逸彦）　都合の悪い日は、7月1日、2日、4日、5日、6日、10日、11日ですね。都合のいい日は14日、15日、16日あと7日は大丈夫です。

○委員長（小田新紀）　3日も空いていますか。

○委員（塚本逸彦）　3日は大丈夫です。

○委員（岡本眞利子） 3日は11時からとかち広域消防事務組合議会なので午後からなら大丈夫です。

○委員長（小田新紀） ほかにございますか。

3日と7日は、会議室は使用できるということです、事務局も対応可能とのことですが、3日の14時はいかがでしょう。

（異議なしの声あり）

○委員長（小田新紀） では、7月3日の14時から開催いたします。

次に、その他ですがみなさんから何かありますか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） 事務局からはありますか。

（なしの声あり）

○委員長（小田新紀） それでは、委員会を終了いたします。

（12：02終了）